

5 マレー語(国語)

*マレー語(Bahasa Melayu)は、マレーシアの国民全てが学校教育の全段階で学ぶ「国語」として位置づけられ、マレー系、華人系、インド系はじめ、多様な民族と文化を持つ国民によって構成されている複合国家・マレーシアにとって、全国民が共通に意思の疎通をはかるための「国語」とであると同時に、マレーシアの国民としてのアイデンティティを高め、国民が統合・団結し、共生していくための大事な「柱」の役割を果たしています。

*マレーシアの教育制度図でも紹介したように、小学校段階においてはマレー語、中国語、タミル語の各民族別教授言語による学校が併置されていますが、中学校以降はすべて、「国語」であるマレー語によって教授がなされ、中等学校以降の入学・修了資格試験やあらゆる公的資格試験も、マレー語によって実施されています。

*そのため、中国語やタミル語の学校に在籍していた児童が公立の中等学校に進学する場合には、授業内容を十分に理解するためのマレー語習得を目的として、原則的に1年間の「移行学級」(remove class)を経ることが義務づけられています。

*教科書は小学校低学年では会話文が中心で進められ、中学年以降は物語文やエッセイ、説明文などの読解の内容が次第に増えて、複雑な内容になっていきます。

*近年では、国語の教科内容の中でも、マレーシア国内の多文化・多民族の様子や各民族の文化の特徴を知り、多文化共生社会への意識付けを低学年から行っている。これは、他の社会科学系の科目(歴史や地域科)や、道徳教育などにも見られる傾向です。

6 簡単なマレー語講座

ポイント1

・名詞同士が並ぶ時は後ろの名詞が形容詞になる。名詞+動詞・形容詞の場合も同様。

Saya 私(名詞)+Buku 本(名詞)
=Buku Saya(私の本)

nasi 米 + goreng 焼く・炒める
=nasi goreng (焼き飯/炒飯)

Orang 人 +Hutan 森
=orang-hutan(森の人/オランウータン)

ポイント2

マレー語の構文は英語とほぼ同じで、主語+(助動詞+)動詞+目的語・補語～という形をとる。動詞は主語や時制によって変化しない。

例えば、過去形を作りたいときは、動詞の前に「sudah」という過去の助動詞をつければ過去形になる。

現在形:Saya makan ini.(私はそれを食べる)

過去形:Saya sudah makan ini.(私はそれを食べた)

例:Sudah makan? [ご飯食べた?(挨拶の時によく使う)]

【応用編】 boleh (可能:～できる)

例:Saya boleh cakap bahasa Inggeris.(私は英語を話すことができます)